

絶滅危惧種における減少要因

減少要因による解析は、レッドデータブックに記載されている減少要因をもとに行った。
なお、1種で複数の減少要因が該当する場合がある。

- ・番号が付いている要因はレッドデータブックに記載されている要因
ただし、すべての分類群で減少要因がこの番号で記載されているわけではなく、文章のみで記載されている分類群も多い。その場合は、内容を読んで各番号に振り分ける作業を行った（次ページのレッドデータブックの減少要因の記載例を参照）。
- ・「新規」と付いている要因は、今回の集計のために作成した要因
- ・ゴシック文字で示した内容は今回の集計のために含めた内容

要因 11 森林伐採
 要因 12 湖沼開発
 要因 13 河川開発
 要因 14 海岸開発
 要因 15 湿地開発
 要因 16 草地開発
 要因 17 石灰等採掘

要因 21 ゴルフ場
 要因 22 スキー場
 新規 その他開発
 要因 23 土地造成
 要因 24 道路工事
 要因 25 ダム建設

} グラフにはこの3要因をまとめて観光開発等として表示

要因 31 水質汚濁
 要因 32 農薬汚染
 新規 湧水の減少・枯渇

要因 41 園芸採取・狩猟等
 要因 42 薬用採集
 要因 43 その他不法採集等

} グラフにはこの3要因をまとめて表示

要因 51 踏みつけ
 新規 過剰利用

} グラフにはこの2要因をまとめて表示

要因 52 捕食者侵入・食害等（直接の捕食・食害等ではなく、間接的に影響する場合も含む）
 新規 要因 52 捕食者侵入・食害等＜在来種による＞（同上）
 新規 要因 52 捕食者侵入・食害等＜外来種による＞（同上）
 新規 要因 52 捕食者侵入・食害等＜不明＞（同上）

} グラフにはこの3要因に分けて表示

要因 53 管理放棄（管理方法の変化を含む）
 要因 54 遷移進行
 要因 55 火山噴火
 要因 56 帰化競合（直接の競合ではなく、間接的に影響する場合も含む）
 要因 57 異種交雑
 新規 要因 57 異種交雑＜在来種による＞
 新規 要因 57 異種交雑＜外来種による＞

} グラフにはこの2要因に分けて表示

新規 交通事故
 新規 混獲
 新規 生物間相互作用の低下・喪失

要因 61 産地極限
 要因 62 近交化進行

要因 71 その他
 要因 99 不明

レッドデータブックの減少要因の記載例

【鳥類】 ライチョウ 絶滅危惧 II 類 (VU)

●存続を脅かしている原因とその時代的变化

- 登山者や観光客の増加にともなう攪乱、ごみの増加、
それにとまなう → 要因 過剰利用
- キツネやカラス類などの天敵の増加 (52)、 → 要因 52 捕食者侵入・食害等<在来種による>
- 高山帯の環境汚染の結果としての病気や寄生虫の増加、 → 要因 71 その他
- 高山帯における観光開発による生息地の減少や分断がある。 → 要因 その他開発

【昆虫類】 マダラナニワトンボ 絶滅危惧 I 類 (CR+EN)

●存続を脅かしている原因とその時代的变化

- 全国的に見ると減少要因の主因は、
池沼の埋め立て (23) と → 要因 23 土地造成
水質悪化 (31) である。 → 要因 31 水質汚濁
- 加えて本種は、産卵行動を行う場所がひざ下程度の草丈の低い湿地に限定され、
ため池では秋の減水によって季節的に生じる湿地に好んで産卵することから、
ため池の管理形態の変化 (秋の水抜きの中止) → 要因 53 管理放棄 (管理方法の変化を含む)
が減少要因として挙げられる。
- さらに東北地方では、近年湿原へのヨシの侵入が顕著で、 → 要因 54 遷移進行
この場合では水域が残り、水質悪化をみなくても姿を消す例が多い。
- なお、中部・関西地方では、幼虫時期の渇水によりため池が完全に干上がり絶滅した例や、
周囲の植生の変化 (松林の遷移) や → 要因 54 遷移進行
農薬使用の影響 → 要因 32 農薬汚染
も指摘されている。

【維管束植物】 オキナグサ 絶滅危惧 II 類 (VU)

園芸採取、自然遷移、草地の開発が減少の主要因である。

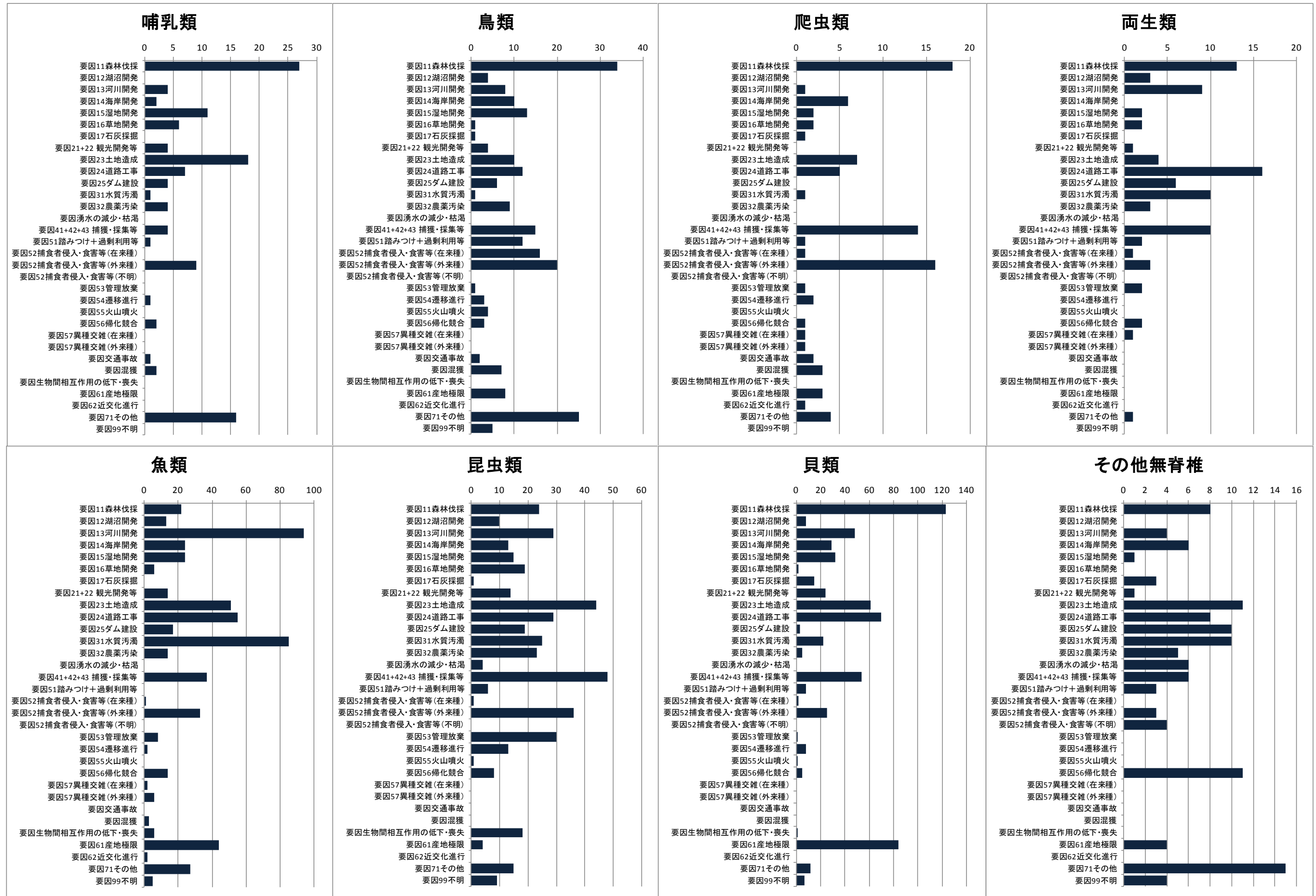
危険性の主要因上位 3 項目の件数

園芸採取	自然遷移	草地開発	不明	無記入	全数
110	56	41	6	51	357

↓

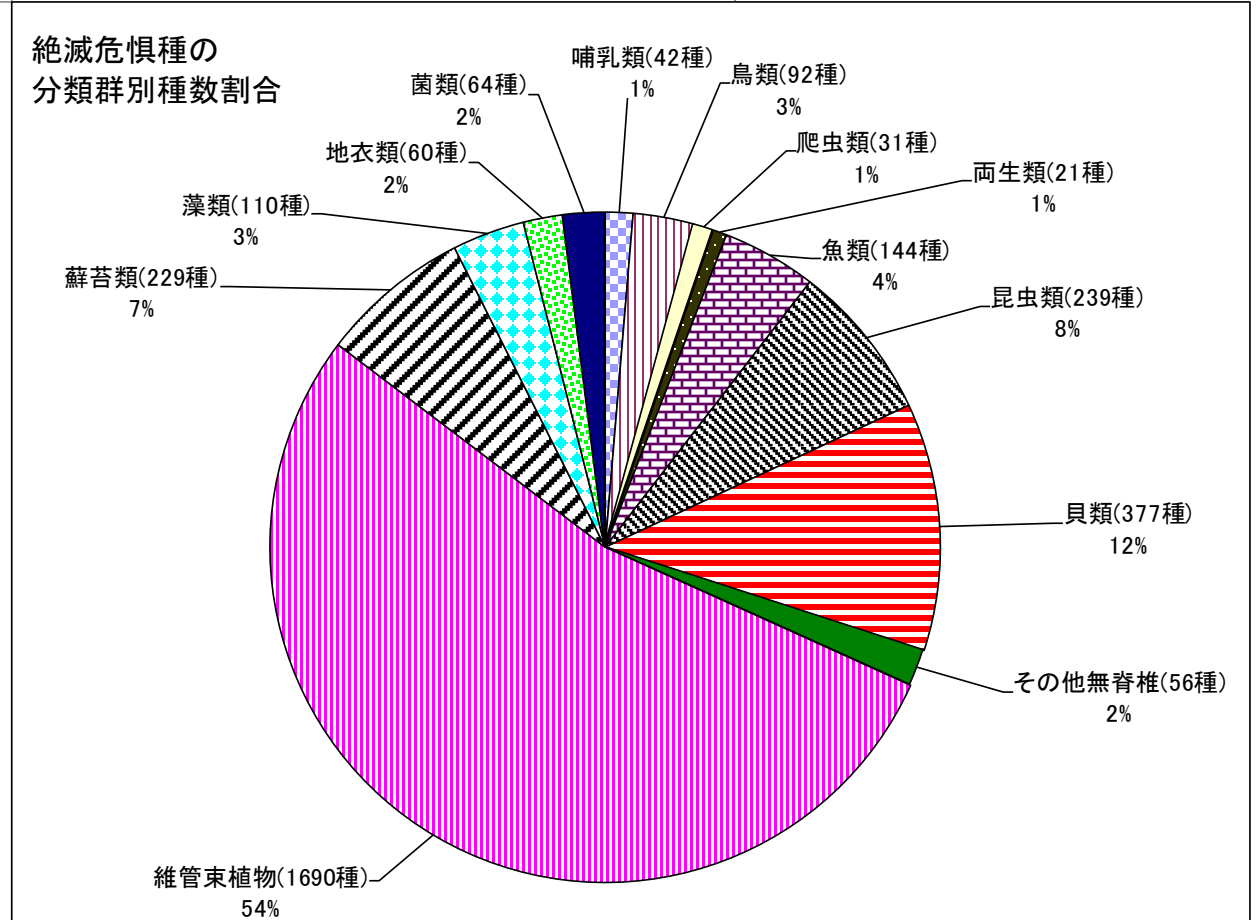
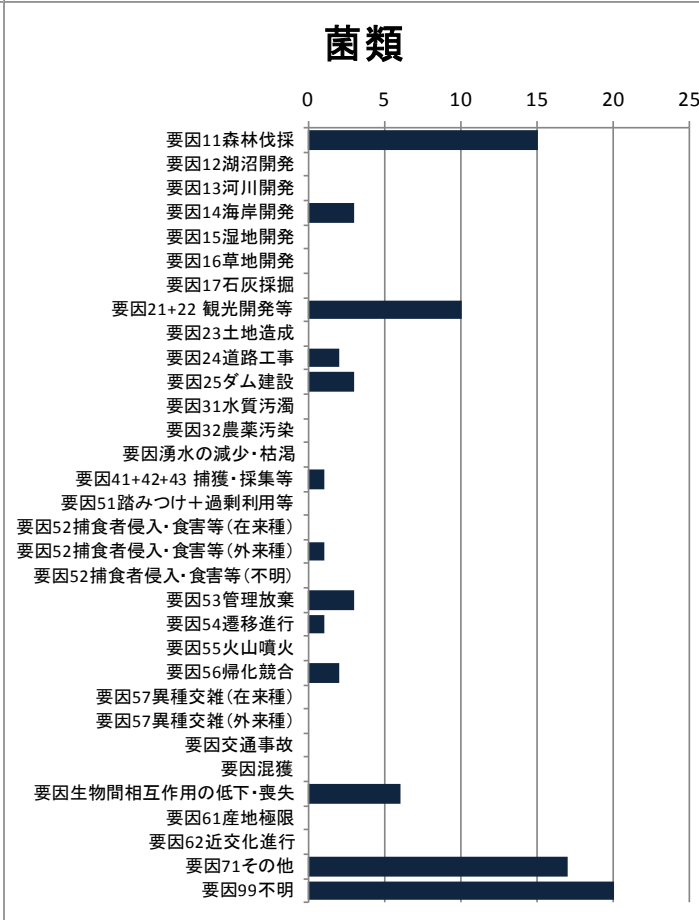
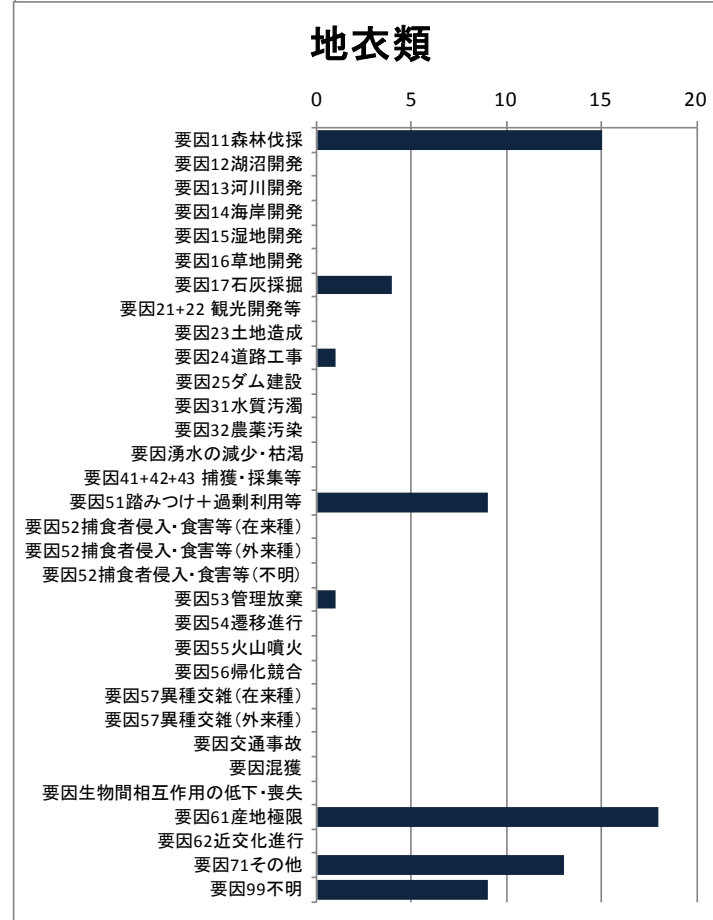
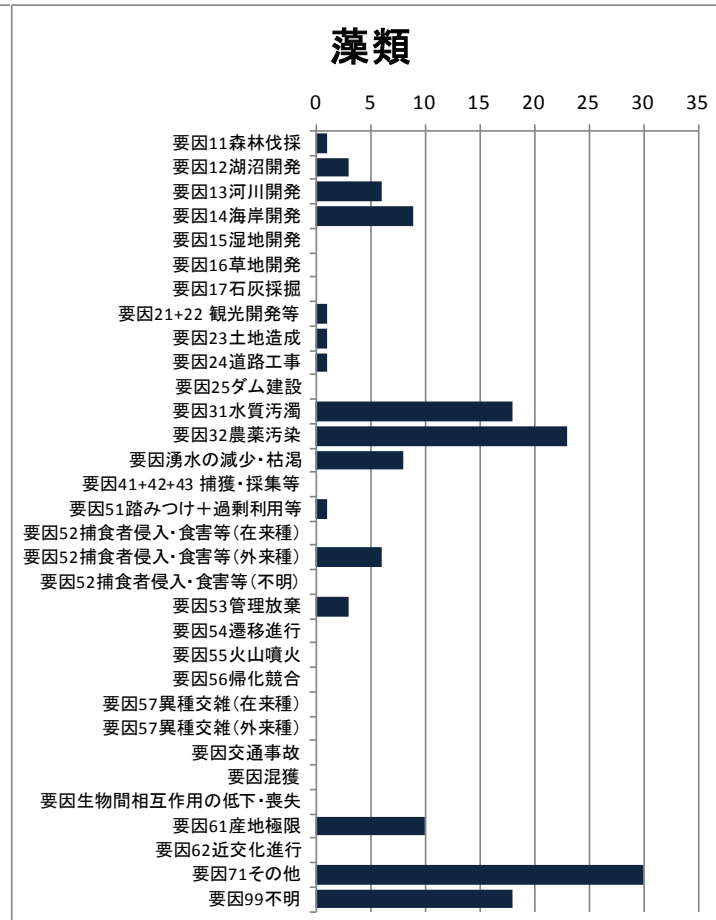
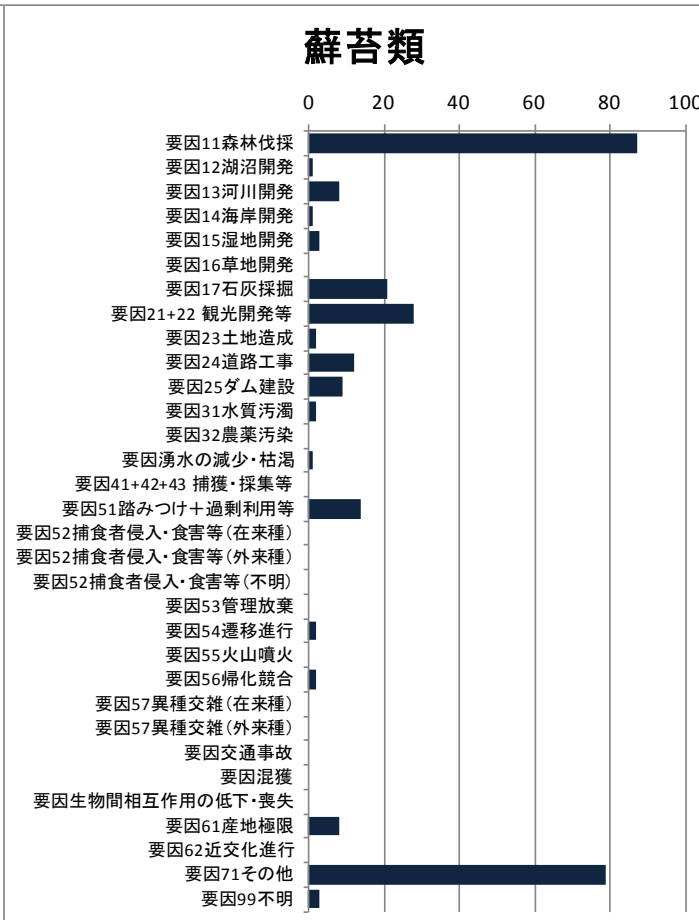
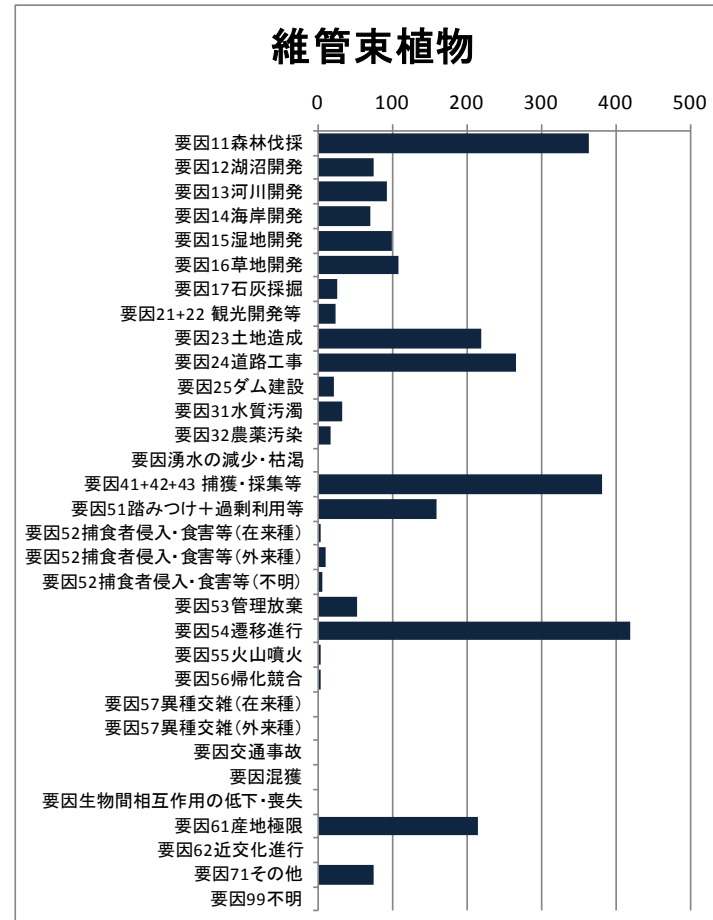
要因 41 園芸採取・狩猟等 要因 54 遷移進行 要因 16 草地開発

注：維管束植物では主要因の上位 3 項目のみが記載されている。
各要因の件数も記載されているが、今回の解析では影響の軽重は考慮せず、すべて同レベルとして扱った。



横軸は種数、1種で複数の減少要因が該当する場合があります。

絶滅危惧種の分類群別の減少要因（植物）



横軸は種数、1種で複数の減少要因が該当する場合があります。